

# 学生と地域がつながるトビラ

京都工芸繊維大学も設計に協力した「福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎」<sup>ふくちしゃ</sup>。昭和レトロなまちなみに、今風のファッションに身を包んだ大学生が集い、身近なテーマから地域のことへと討論を繰り広げています。彼らは吹風舎の扉から、私たちの地域へつながり始めています。この場所が、京都工芸繊維大学の学生たちにとっても、地域との交流拠点になればと期待が膨らみます。



福知山公立大学  
まちかどキャンパス 吹風舎

新町商店街の空き家を改装した吹風舎は、和泉式部の和歌と伝わる「丹波なる 吹風の山の もみじ葉は 散らぬ先より 散るかとおもおう」の「吹風」の文字からヒントをえて名づけられました。大学が福知山に新たな風を吹かせたいという願いが込められています。



たなか そう 田中 奏さん  
(福知山公立大学 地域経営学部2回生)  
青森県上北郡おいらせ町出身。吹風舎の学生企画チーム代表を務める。趣味はまちあるき。

まちの人と一緒に、  
このまちをもっとおもしろく

「やってみたい」を  
かたちにする

新町商店街の空き店舗を改修し、5月にオープンしたまちかどキャンパス吹風舎は、大学の教職員・学生と地域の人々が集い、交流する場をコンセプトとしています。そんな吹風舎を拠点に、学生たちが課外活動を行うのが、「学生企画チーム DOKKO」です。学

生たちの「こんなことがしたい!」「こんな風になったらいいな」を形にしていこうというチームです。一から自分たちで考え、実行していくという活動に魅力を感じ、大學生活の中で、「僕たち自身で何かを起こしたい」と思っている公立大生たちが参加しています。今週のメンバーはだいたい20人。毎週木曜日に、参加できる人が集まると、最近感じたことや考えたこと

を共有しながら、いろいろな計画を話し合っています。すでに実施できたもので言えば、ここを学生と地域の人々が気軽に話し、交流できる場所にしたという思いから始めた「想て成しカフェ」があります。「公立大学って何やっているか分からない」という人も多いと思います。フラッシュと寄ってもらって、飲み物でおもてなしをしながら、地域のみなさんと僕たちのことを知ってもらおうと同時に、みなさんがどんなことを考えているのかを聞いてみたいんです。今はお休みしていますが、10月ごろに再開予定です。これからやってみたいと思ってるのが、「ここの福探し」という企画。まちの魅力は人だと思ってるので、「人」にスポットを当て、福知山で様々な活動をする人に会い、お話を聞いて、それを市民のみなさんや学生たちに

発信していきたいです。それから、子どもたちと様々な活動を通じて交流する「ふく子屋」、高齢者の方々と学生の接点を増やす「福おじおばプロジェクト」など、色々な企画を練っています。

活動を通して  
新たな出会いを

こういった活動の中で、吹風舎に地域の方も、高校生も、幅広い世代の方々に来てもらえたらと思います。学生が商店街や地域の人と何かしらの交流や接点ももてるような仕組みを作りたいです。まずは、吹風舎に遊びに来てくださいます。もっとおもしろい福知山を、地域の皆さんと一緒に作り上げていきたいと思っています。そして、僕たち大学生たちの成長を温かく見守っていただけたらうれしいです。

吹風舎って  
どんなところ?

商店街の「スキマ」を使った  
新たな学びの空間

誰でも利用できる

開館時間中はいつでも一休みしたりおしゃべりしたり、宿題をしたりできるフリースペースとして開放されています。また、有料で貸し切って、会議やイベントをすることもできます。

地域で学びを生み出す  
行事を開催!

誰でも参加できる「まちびと起業塾」では、今秋には「まちの「スキマ」で小商い」をテーマに、空き家、空室、公民館、空き地など、まちの「隙間」を活用した取り組みを学び、実践していくための講座を開催する予定です。また、本を持ち寄って交流するまちライブラリー「福々BOOKS」は、本を通じて繋がり、新たな学びや出会いを生み出しています。



福知山公立大学  
まちかどキャンパス 吹風舎  
所在地/字上新7  
利用時間/火曜～土曜  
午後1時～6時  
連絡先/TEL 45-3087  
E mail/machikado@  
fukuchiyama.ac.jp